

都知事選6・3呼びかけ人会議 立民、共産、社民、新社会、緑、宇都宮支持表明



6月3日夕、「7・5 都知事選挙 変えよう東京 『市民と野党の共闘の実現で都政の転換を』6・3 呼びかけ人会議」が、参加者を100人に限定し、日本教育会館ホールで開催。

呼びかけ人代表として、浜矩子立命大教授のメッセージが紹介されたあと、五十嵐仁法政大名誉教授が「小池都知事誕生以来東京はアラート状態だ。いのち、暮らし、営業を守る都政を実現しよう。都知事選でアベNOを突きつけよう。東京が代われれば日本が変わる。野党共闘体制をつくり挑んで頂きたい。新しい希望の光が見えてきた」と挨拶。

続いて各党代表が挨拶。

長妻昭立憲民主党衆院議員・東京都連代表・選対委員長

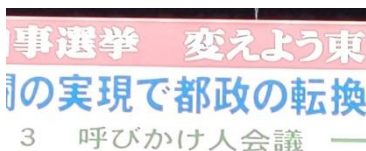
「コロナ禍は、新自由主義の脆弱性を明らかにし、自己責任押しつけのつけが回ってきた。社会、医療、介護、不安定雇用、ぎりぎりのところを直撃。そんな中、都知事選がある。宇都宮さんの決意表明に大変共感した。宇都宮さんを応援し、都連常任幹事会で取り組み決めたい。チャンスだ」

岸本周平国民民主党衆院議員・選挙対策委員長

「高知、静岡と共同してやってきた。長妻さんのお話はまったく同感だ。社会的共通資本、医療、教育、農業などは効率一辺倒ではダメだ。コロナ後はまったく新しい社会をつくっていききたい。都知事選は東京都連で詰めていききたい」

小池晃参院議員・書記局長

「宇都宮さんを応援していきたい。宇都宮さんの政治姿勢や基本政策と一致、歓迎し、全力で支援したい。出来るだけ幅広い市民、政党と共闘広げたい。小池知事は、4年間財界・安倍政治に寄り添ってきた。小池知事が公約した7つのゼロ——待機児ゼロ、介護離職ゼロ、残業ゼロ、都道電柱ゼロ、満員電車ゼロ、多摩格差ゼロ、ペット殺処分ゼロは実現ゼロ。都民の生活がかかった選挙。安倍政権への決定的審判となる」



吉田忠智社民党参院議員・幹事長・選対委員長

「都知事選は3つの意義がある。①コロナで都の対策強化、②都政の転換、小池都政は現場に視線を置いてない、③安倍政治の転換。宇都宮さんの立候補表明、社民党も私も共感している。まだ組織決定していないが、全力でたたかい抜く決意を表明する」

岡崎ひろみ新社会党中央執行委員長

「生きることをしっかり支える都政にしたい。小池都政は問題あった歴代都政と変わらない。宇都宮さんが立候補表明し、一緒に取り組めることうれしい。医療、介護、清掃などエッセンシャルワーカーは低い賃金余儀なくされてきた。小池知事は、大変右翼的で無駄を省くことが大好き。みなさんと全力で取り組む」

漢人あきこ緑の党都本部共同代表・副運営委員長

「昨日臨時都本部会議で宇都宮さん支持を確認。是非野党共闘でたたかいたい。都知事選、気候危機対策、コロナ対策、男女平等・多様な性が問われる。宇都宮さんの訴えに気候危機対策が入っている。都政、次の世代に責任もてるしていくことが求められる」
小林節慶応大名誉教授が、「今回の選挙は人格のたたかいだ」と強調。

宇都宮健児さんが登場。「5月25日、緊急事態宣言が解除された日にツイッターで出馬表明、27日に記者会見を行った。毎回都議会を傍聴してきた。コロナ禍のもとで、都民一人ひとりの生存権がかかった選挙。暮らし、住まい、いのちを守る都政に根本的に転換していく。党派を超えた団結・つながりが大きくなってきている。保守、革新を問わず、政治への問題意識広がれば勝利に結びつく」と決意表明。

最後に呼びかけ人代表の永山利和日大名誉教授が「熱気を感じるつどいとなった」と閉会挨拶。

最後に呼びかけ人代表の永山利和日大名誉教授が「熱気を感じるつどいとなった」と閉会挨拶。

なお、山内れい子東京生活者ネットワーク共同代表は、参加予定でしたが都議会の関係で欠席となりました。

この日のつどいは、実質的に都知事選の決起集会となりました。